

2020年東京大会を来年度にひかえた

我が校のオリンピック・パラリンピック教育（概要版）

中野区立鷺宮小学校

○本校のオリンピック・パラリンピック教育で育成したい幼児・児童・生徒の姿

- ・自らすすんであいさつをする。
- ・協力して学校や地域をきれいにする。
- ・障害のある方への理解を深め共生することができる。
- ・運動、スポーツにすすんで取り組む。
- ・自国と他国の異文化理解。



○主な実践

アスリート等を招いて

- ・2017・2018 なわとび教室（生山 ヒジキ先生）
→体力向上月間と連携し、縄跳び月間の継続を促し、体力向上を図った。
- ・2016 アスリートと学ぼう「出会いからつながった道」（バスケットボール日本代表 大山妙子さん）
→バスケットボールの実践や講話を通してスポーツへの関心を高める。

世界の国々や日本の文化を理解する

- ・東京都国際交流コンシェルジュ「グリーティングカードギフト交流」
→オーストラリアの児童に日本の生活や特徴のある風景や物を英文と絵を交えた紹介を送る。
- ・フラメンコ鑑賞教室（フラメンコダンサー河内さおり先生）
→フラメンコの鑑賞、フラメンコの歴史、スペインでのあいさつの仕方や文化について教わる。

平和で誰もが共生できる社会をめざして

- ・「口と足でかく芸術協会」（古小路浩典さんとのふれあい授業）
→障害があっても困難に負けていない人たちの生き方や信念について知る。
- ・クリーングリーン活動、アニマル当番
→自ら清掃活動、飼育活動に関わり実践することでボランティアマインドを育む。



○来年度（オリンピック・パラリンピックイヤー）への思い

学校全体の教育活動を通してオリンピック・パラリンピックについて学んできている。オリンピック・パラリンピックについて学んだ一人の日本人として、2020年の大会への関心を高めさせたい。競技そのものだけでなく、そこに関わるスタッフや人々の交流などについても目を向け、オリンピック・パラリンピック観戦を通して感じたことや気付いたこと、考えたことなどを学校でも展開される教育活動と結び付けながら大切に感じさせたい。さらに、そこで学んだことは、2020年にとどまることなく、今後も続いていく自らの人生につなげ生かして行ってほしい。